北鎌倉台峯トラスト　北鎌倉の景観を後世に伝える基金

# 北鎌倉だより

会報

2016 年 8 月　　NO.34

（最近見る機会の多い夏の富士）

## 台峯整備工事が始まります

目次

■ 台峯整備工事が始まります　２
■「緑の洞門」問題　４
■ 台峯を歩く会と関連活動の報告　６
■ 総会・会計報告　８
■ 理事にさせて頂いての雑感　９
■ 台峯の周辺⑫　奥井複太郎　１０
■ 活動記録・編集後記　１１
■「『山歩き』のご案内」の挿絵から -5-　１２

## 台峯整備工事が始まります

**諸般の事情で遅れておりました、台峯の整備工事が今年の秋から始まる見込みとなりました。**

**当基金は 8 月 2 日に市役所で鎌倉市公園課から説明を受け、その内容を 8 月 4 日に理事会で検討しました。同30 日には、台峯の現地で理事3 名が鎌倉市公園課と工事内容を確認しながら、当基金からの要望を伝えました。以下はその概要です。**

●今年度の工事内容

1.今年度は“谷戸の池”堤体（堤防）工事には着手しないが、池の浚渫は行う。

2.池の浚渫や今後の堤体工事に備え、工事用仮設路を造成し（詳細は前号をご覧ください）、浚渫した泥の置き場所 2～3 か所を整地する（ササを切るなどして簡単な整地）。

3.尾根道など既存の散策路の一部（当基金で歩いている箇所は、今年度はほとんど該当しない）に応急的な整備を実施する。

●工事内容の詳細

1.池の浚渫に関して：

①冬季を中心に池の水を抜く。そのため、今年の秋から来年の春にかけて池の水が無くなる。

②浚渫した泥は置き場までベルトコンベアーで運ぶ予定。

③泥の置き場は、三か所予定されている（そのうち一カ所は湿地であり貴重な植物の群生地なので、当基金は、別の場所に変更を要請し今後も話し合うことになりました）。

2.工事用仮設路に関して：

①仮設路の位置は当初の計画通りのルートとなり、変更の計画は無くなった（基金からの要請が受け入れられました）。

②仮設路の一部区間は、重い鉄板ではなく軽いプラスチック板を敷くことにした。

3・散策路の整備に関して：

①安全に歩きやすくするため、路面を圧して固め補強する程度。舗装材を持ち込んだりすることは無い。

②斜面の崩壊などから散策路を守るため、散策路沿いで、倒れそうな樹木を一部伐採する。伐採樹木の選定の際には事前に現場で打ち合わせをする。

※鎌倉市公園課：国庫補助を受けるため、国の検査基準にあった工事内容で進める。具体的には、散策路の安全確保が必要。樹木の伐採は散策路の安全と関連がある場合のみに限られる。里山的な大規模な伐採は出来ないことになる。

③来年度以降になるが、既存の散策路で、危険な個所については、過去数十年の間に堆積した路肩の土砂を撤去して道幅を広げる（50 年前の道幅に復元という意味）他、転落防止のために、ロープ柵や補強工事に必要性も考慮している。

●今後について

1.緑地の位置づけや名称については、基本計画の考え方を再考し、中央公園の拡大エリアとして位置付けることも視野に入れている。基金としては、その際は、関係市民団体と協議してほしいと要請。

2.台峯緑地の東側斜面（山ノ内側の住宅地隣接地）「保全配慮地区」の緑地については、ミニ開発の懸念もあるため、紳士協定で終わらせず、今後、長期間かけて逐次買収していく。

3.台峯緑地の供用開始（公開）後に備え、指定管理業者をどうするかも含め、市民団体の関わり方など、維持管理のための組織作りを考えていきたい。

4.来年度は堤体の工事が予定されるが、管

理棟などは再来年の以降になるため、平成30 年早期の開園を目指していたが、遅れる可能性が高い。公園課としては、焦って工事を進めるより、整備内容をより良いものにするために慎重に対応していきたい。

●公園課との話し合い（8 月2日市役所本庁舎にて）

問（基金）：浚渫後、池の底を埋めて、池の水深を浅くすれば、堤防にかかる圧力が低くなり、堤体の縮小や現状の水位の維持（滝の維持）につながるのではないか。

答（鎌倉市公園課）：検討してみる。しかし土木技術的に考えると、水深を浅くしても、池を埋めた分の‘土圧’が加わるので、堤防にかかる圧力が低下するとは考えにくく、堤体（堤防）の縮小や現状の水位の維持にはつながらないかもしれない。

問（基金）：池の水を抜く際は、貴重な生物（淡水性のシジミなど）や下流の水路への配慮をしてほしい。

答（鎌倉市公園課）：沈砂池（ドラム缶のような人工物も考えられる）のようなものを作り、泥が混じらない水を流すなど、いくつかの方法を考えている。

問（公園課）：池の水が無くなるが大丈夫か

答（基金）：池からの湧水があるので（基金の水量モニタリングで確認）完全に乾燥した状態にはならないのではないか。

問（公園課）：“谷戸の池”の下の散策路については、副動線の位置付けがあるが、“谷戸の池”を縦貫するメインルートなので、歩きやすさと環境保全を考慮して、木道造成も考えているが、どうか。

答え（基金）：基本計画のゾーニングでは、谷戸の池周辺は保護区の位置づけがあるので、歩きやすさや利便性にこだわる必要はないのでは？ 現在の環境や景観を大切にしてほしい。

問（公園課）：基本計画では、整備の際、現地で調達できる間伐材など天然資材を多く用いることになっているが、将来の鎌倉市の財政難を想定すると、緑地の補修費用の捻出はますます困難になると予想される。人工的であっても耐久性のある資材を取り入れて整備したいと思うが、市民の理解を求めたい。

答え（基金）：当基金としては、鎌倉市の現状を理解しながら、柔軟に考えて対応していきたい。

台峯緑地は森林だけでなく、休耕田の跡地の湿地や、水路、溜め池が混在しているため、鎌倉市内ではもちろん、県内でも貴重な自然環境が残されています。とは言え、これらの環境は、40 年以上も放置されていることで、里山らしい生態系が失われてきました。今後は適度な草刈りなど人手を入れることが豊かな自然を保つために必要で、現在、当基金をはじめとしたボランティアが手入れ作業を一部で試行しております。

“谷戸の池”と呼ばれる溜め池の泥の堆積量が臨界点を越え、数年前から水質悪化が懸念されています。池の泥を浚渫すると共に、池の水抜き管理が可能な堤防に修復することが、“谷戸の池”の水質改善の為、どうしても必要になってきました。工事のための仮設路の建設で景観が変わり、影響を受ける生物が出てくるかもしれません。さらに、工事が始まると、池や水路の生物の一部を退避、保護する必要が出てくるかもしれません。

従来の山の手入れや歩く会は、現状と同じ活動を続けるのは難しいかもしれませんが、内容や、歩くルートを変えることで対応し、継続したいと思います。当基金は今後も鎌倉市公園課と話し合いを重ねながら、台峯緑地の現場に密着した活動を続けて参ります。　理事　久保廣晃

## 「緑 の 洞 門」問 題

### ☆ 生活文化の中に在りて、後世に残すこと ☆

約２年前より当基金も保存運動に協力してまいりましたが、同トンネルの岩の剥落による危険性などを理由に、昨年 4 月鎌倉市が通行止めを決定し、市議会 9 月定例会で工事の為の予算が可決されたのです。当初は 4 月に着工、7 月中旬には開削工事を終える計画で、4 月 4 日にトンネル囲いが設置されました。

しかし、市側の拙速な手続き不備による工事は直後にストップ（反対運動側の指摘による）、以後現在迄再開されないままの状態が続いています。

こうした中、本年 7 月 8 日に開かれた市文化財専門委員会では、文化庁からの指導を受けて、「掘られた尾根に文化財価値がある」とする結論が出されました。松尾市長は今後仮設工事により通行を確保した上で、文化庁とは協議しながら、恒久的な安全対策を検討していく、としています。

しかし、「開削中止」とまでは明言していない点、また保存工事の方法もライナー工法による内部隙間をモルタルで充填するというのですが、素掘りによる風情を破壊してしまう恐れがある点等々、今後保存を進める上での課題を含んでいると言わざるを得ません。

なお、詳細は「北鎌倉緑の洞門を守る会（北鎌倉史跡研究会）」のホームページ http://kitakamashiseki.blog.fc2.com/ をご参照いただければ、と思います。

平成 28 年 8 月　理事長　出口　克浩

### ☆ 岩剥落の報を受けて ☆

この原稿の〆切後、8月10日午後4時30分過ぎ、緑の洞門付近の岩が剥落しました。幸いにも洞門本体部は損傷を受けておりません。

当基金が協賛する、「北鎌倉緑の洞門を守る会」は8月14日付けで声明を発表しました(次ページ)。

市側の動きとして、8月17日10時より、鎌倉市議会が全員協議会を開催、市長および市行政側より当件についての報告があり（小生も傍聴）、今後文化庁、専門部門を交えて調査、分析、手法の検討等を進めていくとの説明がありました。

理事長　出口　克浩

＜入口付近の岩が剥落した洞門（円覚寺側）＞

## 緑の洞門付近の剥落についての声明

8月11日の夕刻、緑の洞門（北鎌倉隧道）付近の岩が一部剥落しました。剥落したのは鎌倉側坑口から洞門外に張り出した上部と右側斜面であって、幸いにも洞門本体部分は損傷を受けていません。このことにつき、私たちは以下の声明をいたします。

私たちは、2015年4月24日に「北鎌倉駅沿いの岩塊・トンネルの緊急安全対策を求める陳情」を鎌倉市議会に提出しましたが、常任委員会に付託されませんでした。この陳情では、緊急安全対策として樹木樹根の手入れによるひび割れ防止対策、剥落による落石防止対策、表面ケアによるはく離防止対策の3点の実施を求めています。実はこれらは、2014年から要望を重ねてきていることです。

特に今回岩塊が剥落した部分については、昨年専門家の協力を得て調査した結果、剥落等のリスクが高い部分であることから安全対策の要望を重ねてきました。つまり、今回の剥落は1年前から予想出来ていたことなのです。

さらに、本年2月4日の『緑の洞門（北鎌倉隧道）保存・安全対策の提言　第二提言』では、その「総合所見」の部で、藤の間伐の必要性と樹根の処理工法（43ページ）、洞門の構造を安定させるためにアーチ構造とすべく、今回剥落したその箇所を切除、整形する提案（45～46ページ）などを提言しています。

鎌倉市は、私たちの陳情、提言だけでなく、市職員との面談の際の口頭での再三の注意喚起をも無視し、長期にわたり何ら安全対策を講じることなく岩塊部分を荒れるに任せてきました。今回のような事態を招いた責任は鎌倉市にあります。

幸いにも、洞門本体は依然としてその安定性を維持しています。皮肉にも今回の剥落で私たちが提案している岩塊の切除、整形後の形に近づいたと考えます。

私たちは、鎌倉市に対して①専門家と専門業者の援助を受け、現況に沿って洞門を含む岩塊を保全する努力を開始すること、②1年4ヶ月に及ぶ洞門封鎖による市民の耐え難い不便を解消すべく安全対策を早急に講じて通行の再開を可能にすることを求めます。上記2点、いずれも迅速な対応を必要とします。

2016年8月14日

北鎌倉緑の洞門を守る会（北鎌倉史跡研究会）
共同代表　出口　茂　　鈴木　一道

## 台峯を歩く会と関連活動の報告

2015 年 10 月迄は、既に会報で報告しておりますので、今回は 2015 年 11 月より 2016 年 7 月迄の報告を致します。

7 月 17 日の「歩く会」により、通算 213 回開催したことになります。

定例の「歩く会」以外にも、北鎌倉女子学園の課外活動、そしてホタル観察会を実施し、また来月には、「マツムシを聴く会」を予定しています(9 月 18 日 18 時 配水池横集合です)。

それでは順を追って、それぞれの歩く会を簡単にコメントします。

＜台峯を歩く会＞

2015. 11. 15

あいにくの小雨の中でしたが「なださんを偲ぶ山歩きの会」として行いました。

観察のテーマは、「紅葉する木」:イヌビワ、クワ、アカメガシワ、エノキ、ハゼノキ。

2015. 12. 20

今年は冬の訪れが遅く、台峯では最後の紅葉が楽しめました。

一方冬鳥は既に来ていました。エナガ、ヤマガラ、メジロ、シジュウカラ、ノスリ。

2016. 1. 17

前年は谷戸の池も全面凍結でしたが、今年は大きく異なり、一部には紅葉が残っていました。又ウグイスカグラが開花する等自然もやや混乱気味でした。

今月のテーマは冬のツル植物:カニクサ、アケビ、ビナンカズラ、キヅタ、テイカカズラ、ツルグミ、イタビカズラ。

2016. 2. 21

ヤマアカガエルの卵塊を確認しました。私達の手で掘られた小さな池に今年も産卵。自然の素晴らしさを実感です。

今月のテーマはさえずりが聞けそうな野鳥:モズ、ウグイス、コジュケイ、アオゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、カワラヒワ。

2016. 3. 20

今月は北鎌倉女子学園のワンゲルの部員と先生が参加。配水池横のオオシマザクラが満開。オオタカが横切り、田んぼではヤマアカガエルのオタマジャクシが元気に泳ぐ。

今月のテーマは、「春の山野草」。

2016. 4. 17

小雨の中を決行しました。

観察のテーマは「春の山道の野草」:ヤブニンジン、ヤエムグラ、ツルカノコソウ、ムラサキケマン、ヤブタビラコ、ヒメウズ、ホウチャクソウ。

＜初夏に見られるミドリシジミ＞

2016．5．15

今回の山歩きは、「みどりショップ記念山歩き」という事で、感謝の意を込めて開催されました。

今回のテーマは鎌倉を代表する木と、スゲの仲間、イネ科の植物。

2016．6．19

今月のテーマは、6月に咲く樹木の花：クマノミズキ、アカメガシワ、ムラサキシキブ、テイカカズラ　。その他6月の野草と虫。

2016．7．17

まだ梅雨本番ですが、早くもセミは勢揃い。ミンミンゼミも鳴きはじめました。ウグイス、ホトトギスもにぎやかです。カラスザンショウで見たヤマトタマムシの産卵は素晴らしい。

＜枯れかけた幹に産卵中のヤマトタマムシ。7/17＞

＜北鎌倉女子学園野外活動＞

2016．3．15

雨天のため1日遅れましたが、例年通り中学1年生40名と先生4名が参加。自然に触れながら、台峯の歴史を学ぶ。

＜ホタル観察会＞

6．12　ゲンジ100頭、ヘイケ10頭
ほぼ例年通り。

6．25　ゲンジ 30頭、ヘイケ50頭
市役所の担当職員参加。

7．　9　雨天のため中止

今後散策路沿いの仮設路の工事などが予定されており、ホタルに与える影響が心配。

9月予定のマツムシを聴く会の報告は次回に行います。「台峯を歩く会」「山道の手入れ」にご参加ください。お待ちしています。

望月　晶夫

＜ティーアップしたゴルフボールの如き
シロオニタケ（？）8/7＞

＜沢山の働き蜂のいるニホンミツバチの巣。8/7＞

# 総　会　および　会　計　報　告

## 1．総会報告

5月8日(日)14:00から山ノ内公会堂にて通常総会が開かれ、①昨年度事業報告、②今年度事業計画、③現任理事・監事の再任と小幡 正弘氏の理事新任が承認されました。①のうち会計に関しての概略は、以下の通りです。

## 2．会計報告

（2015年4月1日より2016年3月31日まで）

特定非営利活動法 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

（単位:円）

| | 科　　目 | 金　　額 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|
| 収入 | 正会員会費収入 | 48,000 | @3，000円 |
| | 個人会員会費収入 | 217,500 | 普通会員@2，000円、家族会員@500円 |
| | 団体会員会費収入 | 9,000 | @3，000円 |
| | 機関紙収入 | 500 | @500円 |
| | カレンダー収入 | 279,400 | |
| | 民間助成金収入 | 24,200 | みどりショップ他1件 |
| | 寄付金収入 | 65,000 | 3件 |
| | 受取利息 | 195 | 預金利息 |
| | その他 | 3,879 | 保険料戻し他 |
| | 収入計 | 647,674 | |
| 支出 | （緑地保全・管理事業） | | |
| | 整備作業費 | 33,537 | 道具購入および研磨費用 |
| | 賃借料 | 12,000 | 道具小屋借地料 |
| | 損害保険料 | 2,600 | |
| | 事務用品費 | 1,008 | |
| | 雑費 | 2,073 | |
| | 小　計 | 51,218 | |
| | （普及・研修事業費） | | |
| | 通信運搬費 | 64,240 | |
| | 印刷製本費 | 256,737 | カレンダー、会報、山歩きチラシ印刷 |
| | 編集費 | 70,000 | カレンダーデザイン |
| | 事務消耗品費 | 15,284 | |
| | 賃借料 | 31,076 | 山歩き会場使用料、プロジェクタ賃借料 |
| | 損害保険料 | 2,600 | |
| | 会議費 | 6,944 | |
| | 小　計 | 446,881 | |
| | （広報・出版事業費） | | |
| | 通信運搬費 | 5,852 | ホームページ回線使用料 |
| | 広告宣伝費 | 50,000 | 鎌倉朝日広告掲載料 |
| | 小　計 | 55,852 | |
| | （交流・協力事業費） | | |
| | 負担金 | 3,500 | |
| | 渉外費 | 4,340 | |
| | 小　計 | 7,840 | |
| | （管理費） | | |
| | 通信運搬費 | 20,410 | 会費入金費用 |
| | 事務消耗品費 | 4,372 | |
| | 賃借料 | 26,000 | 公会堂使用料 |
| | 支払報酬 | 40,000 | 登記関係 |
| | 会議費 | 5,747 | |
| | 雑費 | 7,860 | |
| | 小　計 | 104,389 | |
| | 支出計 | 666,180 | |
| | 経常収支差額 | ▲ 18,506 | |
| | ホームページ更新積立金戻入 | 120,000 | |
| | 緑地保全積立金繰り入れ | 65,000 | 寄付金相当額 |
| | 当期収支差額 | 36,494 | |
| 保有資産 | 現金 | 238,150 | |
| | 当座預金 | 2,854,174 | 郵貯 |
| | 普通預金 | 377,993 | 郵貯￥17,747／三東U￥360,246 |
| | 定期預金 | 288,490 | 郵貯￥239,386／三東U￥49,104 |
| | 計 | | |
| | 正味財産 | 3,758,807 | |

監事の林雄一郎先生より、適正との監査報告書を頂戴しております。

## 理事にさせて頂いての雑感

念願の鎌倉に来て 10 年が過ぎました。思っていたように緑豊かで神社仏閣も身近にあり、素晴らしいところです。

鎌倉に来たときはまだ現役で働いていましたが、3 年ほどで引退して 1 年目はいろいろと私事で過ぎてしまい、その後時間に余裕が出てきたので好きな植物でも相手にしようと思い中央公園での活動を開始、しばらくして台峯を愛犬と散歩がてら通った時に「台峯を歩く」集いを見て「山の手入れ」に参加、一般会員にさせてもらいました。

けれども、中央公園での「こどもエコパーク」－鎌倉の小学生を対象にした子供を自然の中で一年間を通し月一度自由に遊ばせることを主体とした活動－と「山の手入れ」が同じ日になることが多く、なかなか参加できないで、皆様には申しわけないと思っています。

又、それとは別に「木コリーズ」－公園の樹木の管理、特に稲村ヶ崎が主体－、「緑のレインジャー」、「この樹何の木」などの活動にも参加しています。それに加え、昨年から町田の方で引退した仕事(建築設計関係)のノウハウを生かしたプロジェクトの手伝いを頼まれ、3 日以上応援しなければなりません。

こうした理由により、いろいろの活動に参加しづらいのですが、自然を守る、鎌倉の自然の良さを子供達に知ってもらい後世に伝える等の活動は積極的に参加したいので、自問自答状態です。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

しかしながら、私のようなあまり「山の手入れ」などに参加できない者を「理事に」と言っていただき、とても感謝しています。どの程度皆様の役に立つかはとても疑問を抱きながら承諾しましたが、やる以上はできる限りのことは行いたいと思っています。

手始めと言ってはおかしいのですが、調査やホタル観賞会に初めて参加させて頂きました。水量調査は地味ですが、とても重要なことです。この様なデーターが無ければ整備されてからどの様な変化があるかが全く分からない状態ですから、素晴らしい活動の一つですね！

又ホタル観賞会も同様ですね！皆様の地味な長い活動に敬意を表します。なかなかできる事ではないですね。

そのほかにも植生調査など行っているようですが、あまり参加できなく心苦しいです。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

とりとめのないことを書きましたが、私の持論として「できることは何でも実践する」。まずは実践することです。活動しなければ何も変わらないと云うことですね。台峰の皆さんはそれを実践していてとても生き生きとして見えます。私がその活動に理事として参加できることは、とても幸いなことと受け止めています。

それと、「頼まれたことは基本的に受ける」と云うのも私の基本姿勢です。

今後いろいろご指導の程、お願いいたします。

2016/8/14

小幡 正弘

（本誌P．8にもありますように、同氏は本年5月総会において理事として新たに選任されました。）

## 台峯の周辺–歴史つれづれ–⑫　奥井復太郎

昨年初めシスターR（「R」は修道名の頭文字）が来られて、近く聖堂でご尊父の没 50 年追悼ミサが行われる由。部外者ながら、筆者もお手伝いかたがた参列することにした。

ところで、台峯を抱くこの地はかつてどんな所だったろう、と調べ始めたこの拙文ももう 12 回に及ぶ。けれど全体像を知るには今までのような逸話や事件の集積だけでなく、科学的な調査や研究も本来必要であろう。

鎌倉を東京との関りの中で研究すべく、1937（昭和 12）年に旧鎌倉町の社会調査をした成果が、「鎌倉町の現代相」と「大都市の発展に伴ふ近代社会の変質―（鎌倉町調査の第二報告）－」の2論文に纏められている（『三田学会雑誌』第33巻第1号、第10号、昭和14年）。残念ながら台など旧大船町は対象外だが、隣町でも多くの示唆に富むことだろう。

主体が民間である上に標本ではなく全数調査としたので多大な労苦を要したが、旧鎌倉町役場や町民から多くの支援を受ける。当時およそ 6 千戸、人口 3 万人（2016 年現在、同エリアは約 20 千戸、約 4 万 6 千人）のうち 5 千戸、2 万 5 千人ほどから回答を得た。

調査結果で興味深いのは、例えば、在住 20 年未満の世帯が 6 割強、その 3 割が東京を前住地とする。2 戸に一人は勤め人がいて、やはりその約 3 割は東京に通う。つまり全世帯の約 2 割が「20 年以内に東京から移入」してきた新参家庭であり、また同様に全世帯の約 2 割に「東京への通勤者」がいる。他に東京での事業者や通学者もおり、当時既に東京と関係深かったことが分る。

この調査を行った奥井復太郎（1897～1965）は慶應義塾の経済学者で、都市研究の先駆者とされる。机上の研究だけではなく、後に北九州市のマスタープラン作りを主導し、また母校の塾長など要職を務めた。

東京下谷生まれの江戸っ子ながら、1917 年に葉山の向原へ転居後は終生この地を離れずに三田まで通う。横須賀線電化前は片道 2 時間半も掛かったが。町こそ違え、自身も「20 年以内に東京から移入」した、「東京への通勤者」の走りだったわけである。

しかし、論文から約 80 年後の今日、共稼ぎとなった女性は長距離通勤を避けたがるようだ。都心回帰により「郊外」の消滅が現実味を帯びる。鎌倉市内では相変わらずミニ開発が行われる反面、空き家も目立つ。奥井教授なら何と見て取るか。

それはともかく、冒頭に触れたミサには一族や修道会のシスター方、また故人を慕う人々が大勢参列、その人柄が半世紀経っても偲ばれる場となった。 筆者はそこで初めて、シスターRがヨゼフ奥井復太郎の四女であられることを知ったのである。

本田 隆史

＜ミサ式場で＞

## 活 動 記 録

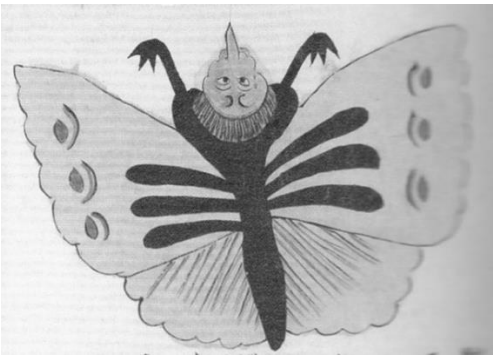
（2016 年 2 月 2 日～ 2016 年 7 月）

1 市公園課と現地調査 4/26
2 市公園課と打ち合わせ 2/26,5/26
3 台峯実施設計への意見書を市あて提出 4/19
4「北鎌倉緑の洞門を守る会」の現地見守りに協力等 4/4～
5 総会(P.8 参照) 5/8
6 理事会 2/7,3/6,4/3,5/8,6/5,7/3
7 台峯を歩く会(山歩き) (10,11 含め P.6,7 参照) 2/21,3/20,4/17,5/15,6/19,7/17
8 山の手入れ 2/20,4/16,5/14,6/18,7/16
9 モニタリング 2/20,3/6,4/16,5/14,6/18,7/3,7/16
10 北鎌倉女子学園生徒を台峯に案内 3/15
11 ホタル観察会 6/12,6/25
12 NPO 法人 山崎・谷戸の会 10 周年記念フォーラムに理事長が来賓として招かれる 3/19

## 編 集 後 記

鎌倉に出現！巨大な、、、、

1. 怪蝶が



＜『姫国山海録』江戸東京博物館「大妖怪展」にて＞

前翅が四尺五寸三分（約 1.4 メートル）にもなる、巨大な蝶が江戸時代に建長寺で羽化していました。もし見かけましたら、ご一報ください。

2. 怪獣が

昨年5月に現れた小柄なウルトラ怪獣3体は、鶴岡八幡宮で参拝を断られた後、鳩サブレなどを齧りつつ葛原が岡神社へと、大人しく鎌倉を散歩したようです。（CS 放送 フジテレビ ONE）

が、今夏の巨大なシンゴジラは極めて猛々しく、由比ｶﾞ浜上陸後は御成通りの通行人を蹴散らし、扇ｶﾞ谷の当基金事務所を踏み潰したあと、山ノ内や台の方へ？ 基金存続が危ぶまれています。

「会員の集い」 ご案内(予告)

年に一度会員の皆さまにお集りいただき、親しく台峯の現状や今後についてご説明し、またご意見を伺う場です。

今年度は 11 月 23 日（祭）13：30 より山ノ内公会堂にて、の予定です。詳しくは、追ってご案内申し上げます。

会報34号

発行日 2016 年 8 月 31 日

発行者 特定非営利活動法人
北鎌倉の景観を後世に伝える基金

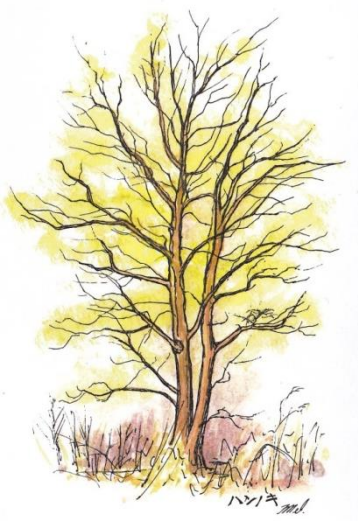
事務局 〒248-0011 鎌倉市扇ガ谷 3-2-12 本田方

HP www.kitakamakura-daimine-trust.org

写真 植木よう子・本田隆史

## 「『山歩き』のご案内」の挿絵から－5－

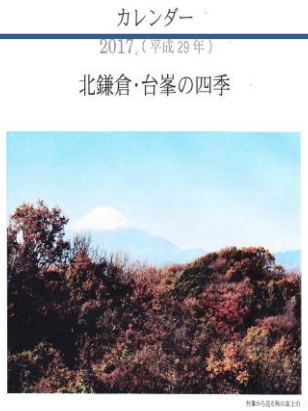
＜石原瑞穂氏画＞



ハンノキ（2015 年 12 月） ノスリ（2016 年 1 月） アオジ（2 月）

キランソウ（3 月） タチツボスミレ（4 月） ジョウビタキ（5 月）

**＜台峯カレンダー＞**

池 英夫さんの美しい写真による来年のカレンダーを鋭意制作中です。今年も、鎌倉市の後援を頂けることとなりました。

別途ご案内の予定ですが、ぜひご自宅の壁に架けて、台峯を見晴らす窓としてください。（予価：1，000円、送料200円）